

学校概要

創立 23 周年	学校長 本田 正道	副校長 中村 英治	学期 2 学期制	児童・生徒数 324 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 3		主な関係校: 奈良中学校 奈良小 恩田小		

学校教育目標

「互いのよさを認め合い、生き生きと学びあう子」
 ○自分らしさを発揮し、互いのよさを認めあう子どもを育てます。(知)
 ○豊かな体験をもとに、自ら考え判断し、ねばり強く行動する子どもを育てます。(徳)
 ○健康を考え、生命と体を大切に育てます。(体)
 ○まちとのふれあいを大切にして、共に生きようとする子どもを育てます。(公)
 ○コミュニケーションを通して、社会への視野を広げる子どもを育てます。(開)

学校の特徴

○公園や田畑などの「自然の材」と、閑静な住宅街また、保育園・老人ホーム、商店などが共存する地域にある学校であり、生活科や『横浜の時間』の学習に活用できる「まちの材」が豊富である。
 ○保護者・地域からの信頼は厚く、学習ボランティアなどのPTA活動にも協力的である。
 ○児童理解や指導に熱心な職員が多く、学び合う姿勢が生まれている。
 ■保護者からは、挨拶やコミュニケーション、表現力の向上や、自分から進んで行動する姿勢を身につけることを要望されている。
 ■学力状況調査の結果からは、学校としての基礎・基本の定着とともに、自ら学び続ける意欲の向上が課題である。

学校経営中期取組目標

○地域の中の学校を創造する
 ・地域、PTA行事等に教職員が積極的に参加できるよう、校務分掌に役割分担を位置付け、地域を意識した教育活動を展開します。(学校防災を含む)
 ・現在の桂小教育懇話会から桂小学校運営協議会の設置に向けて検討を始めます。(目標H29年度)
 ・言語活動の重視(優しさを心に秘め行動する子)します。
 ・体力向上の重視(自ら自分の体を高める子)

小中一貫教育の取組

奈良中学校	ブロック	奈良中学校・奈良小学校・恩田小学校・桂小学校
9年間で育てる子ども像	○ブロック内の小中学校職員との会議や交流を定期的を実施し、授業交流やカリキュラム編成を進めます。 ○授業相互見学、部活動交流、生徒会訪問、音楽相互交流などの機会を定期的に設け、小中連携を強めます。	
自校の具体的取組	・小中児童生徒交流会: 中1授業参観、文化祭見学、部活動体験、生徒会役員交流、吹奏楽部の演奏会などを通して、環境の違いや小中のつながりを考えます。 ・小中教職員交流: 授業参観・研究会、教科別交流会・ブロック教務主任会などの情報交換などを通し、学校間の差異を認識するとともに、ブロック内の統一性や教育観を共有します。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実し、思考力・判断力・表現力の育成を目指します。	① 説明、報告、記録、対話、討論などの言語活動を授業に位置付け、自分の考えを表現・交流する授業を定着させ、児童の変容を分析する。 ② 比較する、分類する、関連付けるなど、思考する活動を適切に位置付け、自分の考えを明確にもつ指導や授業展開の具現化を図る。
豊かな心	道徳科を要として、全教育活動での道徳教育を充実させ、自ら判断し、自他を大切にできる心情や態度を育てます。	①道徳科を要とし、カリキュラムとの総合化を図って全教育活動を充実させる。②年間を見通した児童会・クラブ活動・宿泊体験学習や社会科見学の充実。③縦割り活動を通して学年との思いやりや協力する心・責任感の育成を図る。④個別の教育支援・指導計画に沿って職員が連携を取り指導にあたる。⑤他学年や地域の方とかわる機会を大切に、児童の思いやりや協力を育てる。
健やかな体	「できた」「わかった」が実感できる授業を中心としながら、教育活動全体を通して、健やかな体の育成し、自ら自分の体を高める児童を育てます。	①自己の成長を見つめる場面を設け、振り返り記録したものを共有する。 ②桂ギネス、ふれあいランニング、大縄集会を中心に子どもの運動場を増やす。 ③体力テストの結果等を保護者と共有するなど、家庭や地域と連携し、体力の向上、生活習慣の改善を図る。
児童指導	全職員が「学校生活のきまり」を共有し一貫した指導を行う。社会性やコミュニケーション力の向上を目指すとともに、いじめの防止・早期の発見と対応に努めます。	①桂小スタンダードの精選とその必要性の共通認識をもとに全職員が指導にあたる。 ②Y-Pアセスメント、学校生活アンケートを年間計画に位置付け、学級の実態把握に努めるとともに、それらを指導に生かせるための研修を充実させる。
地域連携	保護者・地域のサポートを活かし、開かれた学校づくりに努めるとともに、「地域の中の学校の創造」に向け、次年度の「運営協議会」の設置に向けて検討を始めます。	①桂っ子夏祭り、桂っ子もちつき大会、桂フェスタ、地域防災総合訓練等に対して、学校が協力できることを考え、児童及び担当職員を中心に積極的に参加できるようにする。
特別支援教育	配慮の必要な児童への職員全員の共通理解と支援体制づくりを目指します。	①コーディネーターを各ブロックに1名配置し、必要な情報共有を推進する。 ②自閉症研修に加え、メンター研で特別支援に関する手立ての作り方講座を、外部講師を招いて実施する。 ③支援体制の在り方を検討・改善を図る。
いじめへの対応	全職員による児童の見守りと情報共有を基盤に、互いを認め合える人間関係と学校風土の構築に努める。	些細な兆候を逃さないよう、児童支援専任を中心に、日頃から児童の様子や人間関係の把握に努め、いじめの予防と早期発見につなげる。 Y-Pアセスメントなどのアンケートを活用したり、児童支援専任を中心にSCも含めた教育相談体制を整えたりする。
人材育成・組織運営	教職員の専門性が向上するとともに、メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修を計画的に行います。	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが主となり活動を継続して行う。②情報の共有化の方法や内容面での検討・改善を図り、全職員が活用できる環境と研修を整備する。③行事の精選や見直し、業務の効率化への改善を検討・推進していく。

担当	教務部
----	-----